

## 「高千穂」のこれからを考える。

下堂 蘭 遼馬

宮崎県の北端に「高千穂」という町がある。筆者は、高校を卒業するまでこの町で育ち、大学進学のため上京した。本学で社会学を学んだのちに、高千穂町に課題が山積していることを知り、大学で学んだ社会学の集大成として、卒業研究で町が抱える課題とこれらについて考察した。

高千穂町には、様々な問題が混在しているが、その根源を辿ると「人口減少問題」に繋がった。人口減少は今に始まったことではなく、高千穂町に限らず一部を除き日本全体で起きている問題であるということと、この問題は国内最大の社会問題であり、すぐに解決することは難しいということを理解し、該当する地域に適した手段で改善していくべきだと考えた。

長年高千穂町で暮らしてきた筆者の経験を踏まえながら、高千穂町に適した観光資源を生かしたまちづくりや、町の内側・外側それぞれに向けたアプローチ等を考察したが、高千穂町の真の強さは、“ひと”であると考えた。そこで、町民同士の繋がりの深さと、個々の人当たりの良さから、高千穂町に特化した新たなまちづくりの術として、「全員参加型のまちづくり」を提案した。それは、町内に住むすべての人が、お互いの立場を認め合い、町での何らかの役割を持たせ、助け合って生きていくということだ。

最終的には、“ひと”が未来を変える。そして、それが高千穂町にはできると確信している。私が台風の日となり、皆を巻き込んで「高千穂」のこれからを共に創っていきたい。